

## 教師が授業の「ねらい」を明確にもちましょう

栃木県学力向上研究委員会では「授業の始めに『本時のねらい』をはっきり示しましょう」と提言しています。これは、教師と生徒がその時間の「ねらい」を共有し、生徒に目的意識をもって学ばせることを目的としています。当然、生徒に「ねらい」を提示するためには教師自身が「本時のねらい」をしっかりと意識していなければなりません。そして、教師がもつ「ねらい」とは、「何を」だけでなく「どのようにして学習させるか」というところまで踏み込んだものであるべきです。

ここでは、第1学年の「音」の単元について本時の「ねらい」を明確にした授業の例を紹介します。

### 1 「気付かせる」ことをねらいとした授業

始めに、ソプラノリコーダーとアルトリコーダー、大太鼓と小太鼓などの音を聞かせて、楽器の大きさと音の高さの関係に気付かせます。または、ギターを自由に弾かせて、どうしたときに高い音が出るか気付かせるのもよいでしょう。

高い音が出るのは  
どんなときかな



- ・ 細い笛
- ・ 小さい笛
- ・ 短い笛

- ・ 小さい太鼓
- ・ 皮を強く張った太鼓

- ・ 細い弦
- ・ 弦の下の方を押さえる
- ・ 弦を強く張る

このような生徒の「気付き」から授業を展開していくと、生徒は自分で発見したことが正しいかどうか興味をもって取り組みます。いきなり「これはモノコードという実験器具です。注意事項は・・・」という授業では、生徒は「やらされている」という意識になりがちです。

次に、モノコードを使って実験します。ここでは「短い弦、強く張った弦の揺れ具合を見て、長い弦、たるんだ弦と違う点は何か」という具体的な課題を出します。

短い弦、強く張った弦の振動の様子を見て、たくさん震えている(振動が速い)ことに気付く生徒がいるはずですよ。



具体的な課題を出すことで、ねらいに沿った気付きが生まれてくるよ。

「気付かせる授業」では、自ら課題を見付けさせたり疑問を感じさせたりして、学習意欲を高めましょう。

実物に触れる  
体験する

感じる  
気付く

課題意識をもつ  
興味・関心が高まる